

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成30年3月13日
【四半期会計期間】	第70期第3四半期（自平成29年11月1日至平成30年1月31日）
【会社名】	日本ビューホテル株式会社
【英訳名】	NIPPON VIEW HOTEL CO.,LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 遠藤 由明
【本店の所在の場所】	東京都台東区西浅草三丁目17番1号
【電話番号】	03-5828-4429（代表）
【事務連絡者氏名】	常務取締役 矢島 学
【最寄りの連絡場所】	東京都台東区西浅草三丁目17番1号
【電話番号】	03-5828-4429（代表）
【事務連絡者氏名】	常務取締役 矢島 学
【縦覧に供する場所】	日本ビューホテル株式会社 成田ビューホテル （千葉県成田市小菅字三ツ塚700番地） 日本ビューホテル株式会社 伊良湖ビューホテル （愛知県田原市日出町骨山1460番地36） 株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第69期 第3四半期 連結累計期間	第70期 第3四半期 連結累計期間	第69期
会計期間	自平成28年5月1日 至平成29年1月31日	自平成29年5月1日 至平成30年1月31日	自平成28年5月1日 至平成29年4月30日
売上高 (百万円)	15,350	16,270	20,179
経常利益 (百万円)	1,207	616	1,304
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期(当期)純損失() (百万円)	1,610	271	1,554
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	1,597	277	1,465
純資産額 (百万円)	12,687	12,519	12,575
総資産額 (百万円)	22,075	30,340	23,135
1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期(当期)純損失金額() (円)	166.41	28.87	160.83
潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額 (円)	-	28.73	-
自己資本比率 (%)	57.5	41.3	54.4

回次	第69期 第3四半期 連結会計期間	第70期 第3四半期 連結会計期間
会計期間	自平成28年11月1日 至平成29年1月31日	自平成29年11月1日 至平成30年1月31日
1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額() (円)	217.46	10.47

(注) 1. 当社は、四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3. 第69期第3四半期連結累計期間又は第69期の潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期(当期)純損失金額であるため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社および当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当第3四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社および連結子会社）が判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、企業収益の改善や堅調な雇用・所得情勢を背景に個人消費が底堅く推移し、緩やかな回復基調が続きました。一方、労働人口の減少や、米国の政策動向および東アジア地域の地政学的リスクによる世界経済の不確実性などにより、先行きの不透明な状況が続いております。

ホテル業界におきましては、新規ホテルの開業や民泊の広がりなどによって競争環境が激化しているものの、政府の観光立国推進に向けた政策を背景に訪日外国人は前年を上回って増加しており、宿泊需要は引き続き堅調に推移しました。

このような経営環境のもと、当社グループは、第2次中期経営計画に基づき、既存事業の長期持続的な成長と事業基盤の拡大のための取組みを進めております。当第3四半期連結累計期間では、平成29年5月に札幌ビューホテル大通公園を開業したほか、浅草ビューホテルの1階ロビーフロアの全面改装工事や機械設備の更新工事を実施いたしました。更に平成30年5月に新規開業予定の大阪ビューホテル本町の開業準備を進めるなど、長期持続的な成長サイクルの構築を図るための施策に取り組んでおります。なお、高崎ビューホテルは平成30年1月5日付けで株式会社グランビューに営業譲渡いたしました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は16,270百万円（前年同期比6.0%増）、営業利益はホテルの開業費用や大規模な設備投資費用を計上したことなどにより、633百万円（前年同期比48.0%減）、経常利益は原発事故による逸失利益の補償金56百万円を営業外収益に計上した一方で支払利息が増加したことなどにより、616百万円（前年同期比48.9%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は特別損失で設備投資に係る固定資産除却損262百万円を計上したことなどにより、271百万円（前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純損失1,610百万円）となりました。

セグメント別の業績は以下のとおりであります。

セグメントの 名称	売上高			セグメント利益（営業利益）			減価償却前営業利益(*)		
	前第3四 半期連結 累計期間 （百万円）	当第3四 半期連結 累計期間 （百万円）	前年 同期比 増減額 （百万円）	前第3四 半期連結 累計期間 （百万円）	当第3四 半期連結 累計期間 （百万円）	前年 同期比 増減額 （百万円）	前第3四 半期連結 累計期間 （百万円）	当第3四 半期連結 累計期間 （百万円）	前年 同期比 増減額 （百万円）
ホテル事業	12,907	13,926	1,018	1,116	529	586	1,845	1,604	240
施設運営事業	1,341	1,341	0	32	34	1	49	51	1
遊園地事業	1,170	1,078	92	60	62	2	137	140	2
合計	15,420	16,346	926	1,209	626	582	2,032	1,795	236
調整額	69	75	6	7	6	1	7	6	1
連結数値	15,350	16,270	919	1,216	633	583	2,040	1,802	237

(*) 減価償却前営業利益 = 営業利益 + 減価償却費

ホテル事業

ホテル事業では、平成29年5月に開業した札幌ビューホテル大通公園が客室部門を中心に売上に寄与し、更なる収益性向上のため、レストランの集約と新設および客室61室の増室を行いました。旗艦ホテルの浅草ビューホテルでは、7月30日から11月末までの一部レストランの休業や8月20日から9月10日までの全館クローズ期間を設け、1階ロビーフロアの全面改装工事や受変電設備の更新工事などを行い、新たなレストラン、ラウンジ、フロントなどを設置したロビーフロアを12月1日に全面リニューアルオープンいたしました。

これらの結果、売上高は13,926百万円（前年同期比7.9%増）、営業利益は529百万円（前年同期比52.5%減）となりました。

ホテル事業の主要な指標は以下のとおりであります。

（ホテル施設概要）

平成30年1月31日現在

	総客室数 (室)	宴会場数 (室)	宴会場面積 (㎡)	結婚式場数 (ヶ所)	料飲施設数 (ヶ所)
浅草ビューホテル	326	12	2,801	2	8
成田ビューホテル	489	20	2,532	3	6
秋田ビューホテル	187	8	2,070	2	4
伊良湖ビューホテル	147	6	729	1	4
高崎ビューホテル	-	-	-	-	-
両国ビューホテル	150	4	304	-	2
札幌ビューホテル大通公園	347	5	1,294	-	2
ホテルビューパレス	42	-	-	-	2

料飲施設数には、レストラン、バー、ラウンジ、パティスリーの店舗数を記載しております。

総客室数、宴会場数、結婚式場数および料飲施設数には、改装工事中のものも含まれております。

高崎ビューホテルは、平成30年1月5日付けで営業譲渡いたしました。

（販売実績）

前第3四半期連結累計期間および当第3四半期連結累計期間における販売実績は次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成28年5月1日 至 平成29年1月31日) (百万円)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成29年5月1日 至 平成30年1月31日) (百万円)	前年同期比 (%)
《ホテル事業》			
婚礼・宴会	5,297	5,301	100.1
客室	3,728	4,592	123.2
レストラン他	3,881	4,031	103.9
(主要な事業所)			
浅草ビューホテル			
婚礼・宴会	2,791	2,642	94.7
客室	1,610	1,528	94.9
レストラン他	1,648	1,452	88.1

(注) 1. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

2. 上記の金額は、事業セグメント間取引消去前の金額であります。

(収容実績)

前第3四半期連結累計期間および当第3四半期連結累計期間における収容実績は次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成28年5月1日 至 平成29年1月31日) (人)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成29年5月1日 至 平成30年1月31日) (人)	前年同期比 (%)
《ホテル事業》			
婚礼・宴会	525,252	582,470	110.9
客室	589,221	716,653	121.6
レストラン他	1,203,948	1,212,454	100.7
(主要な事業所)			
浅草ビューホテル			
婚礼・宴会	203,170	192,162	94.6
客室	170,987	162,061	94.8
レストラン他	445,035	370,770	83.3

(平均利用単価)

前第3四半期連結累計期間および当第3四半期連結累計期間における平均利用単価は次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成28年5月1日 至 平成29年1月31日) (円)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成29年5月1日 至 平成30年1月31日) (円)	前年同期比 (%)
《ホテル事業》			
婚礼・宴会	10,086	9,102	90.2
客室	6,328	6,409	101.3
(主要な事業所)			
浅草ビューホテル			
婚礼・宴会	13,738	13,750	100.1
客室	9,418	9,434	100.2

平均利用単価は、収容実績(人数)の合計により算出した1人当たりの単価であります。

(客室稼働率)

前第3四半期連結累計期間および当第3四半期連結累計期間における客室稼働率は次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成28年5月1日 至 平成29年1月31日) (%)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成29年5月1日 至 平成30年1月31日) (%)	前年同期比 (%)
《ホテル事業》	84.7	85.4	100.8
(主要な事業所)			
浅草ビューホテル	87.5	81.8	93.5

客室稼働率(%) = 稼働客室数 ÷ 総客室数 × 100

客室稼働率は、改装工事等により販売が不可能であった客室も含めた総客室数を分母として算出しております。

施設運営事業

施設運営事業では、「ぎょうけい館」を中心にインターネットでの宿泊プランの充実を図ったことや、6月に行った「ホテルグリーンパール那須」の改装による集客効果などにより、客室部門が堅調に推移いたしました。また、一部レストランの営業時間の見直しを行うなど業務の効率化と経費低減を図りました。

これらの結果、売上高は1,341百万円(前年同期比0.0%減)、営業利益は34百万円(前年同期比4.5%増)となりました。

(販売実績)

前第3四半期連結累計期間および当第3四半期連結累計期間における販売実績は次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成28年5月1日 至 平成29年1月31日) (百万円)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成29年5月1日 至 平成30年1月31日) (百万円)	前年同期比 (%)
販売実績	1,341	1,341	100.0

- (注) 1. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。
2. 上記の金額は、事業セグメント間取引消去前の金額であります。

(収容実績および客室稼働率)

前第3四半期連結累計期間および当第3四半期連結累計期間における収容実績および客室稼働率は次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成28年5月1日 至 平成29年1月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成29年5月1日 至 平成30年1月31日)	前年同期比 (%)
客室収容実績(人)	54,102	54,282	100.3
客室稼働率(%)	81.3	81.8	100.6

客室収容実績および客室稼働率は、ぎょうけい館、グリーンパル那須、ホテルプラザ菜の花およびおきたま路の合計です。

客室稼働率(%) = 稼働客室数 ÷ 総客室数 × 100

客室稼働率は、改装工事等により販売が不可能であった客室も含めた総客室数を分母として算出しております。

遊園地事業

那須りんどう湖 LAKE VIEWでは、7月から秋にかけての天候不順や10月から行っている浚渫工事による湖の水抜き作業の影響が大きく、集客に苦戦いたしました。前連結会計年度の平成28年7月にオープンした「那須の恵み Me k k e ! プッフェ&マルシェ」も天候不順が集客に大きく影響いたしました。そういった状況の中、一部施設の営業時間を見直すなど業務の効率化と経費低減を図りました。

これらの結果、売上高は1,078百万円(前年同期比7.9%減)、営業利益は62百万円(前年同期比3.8%増)となりました。

(販売実績)

前第3四半期連結累計期間および当第3四半期連結累計期間における販売実績は次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成28年5月1日 至 平成29年1月31日) (百万円)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成29年5月1日 至 平成30年1月31日) (百万円)	前年同期比 (%)
販売実績	1,170	1,078	92.1

- (注) 1. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。
2. 上記の金額は、事業セグメント間取引消去前の金額であります。

(収容実績)

前第3四半期連結累計期間および当第3四半期連結累計期間における収容実績は次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成28年5月1日 至 平成29年1月31日) (人)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成29年5月1日 至 平成30年1月31日) (人)	前年同期比 (%)
収容実績	341,639	293,342	85.9

収容実績は、那須りんどう湖 LAKE VIEWの遊園地入園者数を記載しております。

(2) 財政状態の分析

資産

当第3四半期連結会計期間末における資産の合計は、30,340百万円（前連結会計年度末23,135百万円）と、7,205百万円増加いたしました。

うち流動資産は、4,662百万円（同5,005百万円）と、342百万円減少いたしました。これは、主に現金及び預金の減少によるものであります。

固定資産は、25,677百万円（同18,129百万円）と、7,548百万円増加いたしました。これは、主に浅草ビューホテルの1階改装工事による建物等の増加並びに札幌ビューホテル大通公園の賃貸借契約によるリース資産の増加および客室改装工事による建物等の増加によるものであります。

負債

当第3四半期連結会計期間末における負債の合計は、17,821百万円（前連結会計年度末10,559百万円）と、7,261百万円増加いたしました。

うち流動負債は、3,885百万円（同4,386百万円）と、500百万円減少いたしました。これは、主に1年以内返済予定の借入金の増加があったものの買掛金および未払法人税等の減少によるものであります。

固定負債は、13,935百万円（同6,173百万円）と、7,762百万円増加いたしました。これは、主に札幌ビューホテル大通公園の賃貸借契約によるリース債務の増加および長期借入金の増加によるものであります。

純資産

当第3四半期連結会計期間末における純資産の合計は、12,519百万円（前連結会計年度末12,575百万円）と、56百万円減少いたしました。これは、主に親会社株主に帰属する四半期純利益の計上により利益剰余金の増加があったものの、剰余金の配当の支払いおよび自己株式の取得によって減少したことによるものであります。この結果、自己資本比率は、41.3%（前連結会計年度末比13.1ポイント減）となりました。

(3) 事業上および財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ（当社および連結子会社）の事業上および財務上の対処すべき課題に重要な変更および新たに生じた課題はありません。

(4) 研究開発活動

該当事項はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	37,000,000
計	37,000,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成30年1月31日)	提出日現在発行数(株) (平成30年3月13日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	9,716,425	9,724,425	東京証券取引所 市場第一部	単元株式数 100株
計	9,716,425	9,724,425	-	-

(注)「提出日現在発行数」欄には、平成30年3月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式は含まれておりません。

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成29年11月1日～ 平成30年1月31日	24,000	9,716,425	12	2,787	12	1,697

(6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成29年10月31日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成30年1月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	297,600	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 9,392,400	93,924	-
単元未満株式	普通株式 2,425	-	-
発行済株式総数	9,692,425	-	-
総株主の議決権	-	93,924	-

【自己株式等】

平成30年1月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
日本ビューホテル(株)	東京都台東区 西浅草三丁目17番1号	297,600	-	297,600	3.07%
計	-	297,600	-	297,600	3.07%

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（平成29年11月1日から平成30年1月31日まで）および第3四半期連結累計期間（平成29年5月1日から平成30年1月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年4月30日)	当第3四半期連結会計期間 (平成30年1月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,221	2,442
売掛金	854	801
貯蔵品	201	191
繰延税金資産	200	222
未収還付法人税等	-	168
その他	527	837
貸倒引当金	0	0
流動資産合計	5,005	4,662
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	10,123	12,985
機械装置及び運搬具(純額)	227	273
工具、器具及び備品(純額)	433	522
土地	5,613	5,611
建設仮勘定	392	301
リース資産(純額)	80	4,828
その他(純額)	0	0
有形固定資産合計	16,870	24,522
無形固定資産	44	48
投資その他の資産		
投資有価証券	43	59
長期貸付金	94	94
繰延税金資産	271	158
その他	902	893
貸倒引当金	97	98
投資その他の資産合計	1,214	1,107
固定資産合計	18,129	25,677
資産合計	23,135	30,340

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年4月30日)	当第3四半期連結会計期間 (平成30年1月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	985	272
1年内償還予定の社債	165	165
1年内返済予定の長期借入金	948	1,727
リース債務	48	324
未払金	1,204	925
未払法人税等	294	-
未払消費税等	160	61
賞与引当金	285	153
ポイント引当金	30	6
その他	263	248
流動負債合計	4,386	3,885
固定負債		
社債	253	170
長期借入金	5,055	8,092
リース債務	70	4,965
退職給付に係る負債	435	394
資産除去債務	47	43
長期末払金	171	138
その他	140	131
固定負債合計	6,173	13,935
負債合計	10,559	17,821
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,769	2,787
資本剰余金	1,689	1,707
利益剰余金	8,269	8,332
自己株式	247	408
株主資本合計	12,481	12,419
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	3	14
退職給付に係る調整累計額	90	85
その他の包括利益累計額合計	94	100
純資産合計	12,575	12,519
負債純資産合計	23,135	30,340

〔 2 〕 【 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 】

【 四半期連結損益計算書 】

【 第 3 四半期連結累計期間 】

(単位 : 百万円)

	前第 3 四半期連結累計期間 (自 平成28年 5 月 1 日 至 平成29年 1 月31日)	当第 3 四半期連結累計期間 (自 平成29年 5 月 1 日 至 平成30年 1 月31日)
売上高	15,350	16,270
売上原価	3,773	3,825
売上総利益	11,576	12,444
販売費及び一般管理費	10,359	11,811
営業利益	1,216	633
営業外収益		
受取補償金	37	56
その他	76	55
営業外収益合計	113	112
営業外費用		
支払利息	61	109
株式公開費用	0	-
支払手数料	50	1
その他	11	18
営業外費用合計	123	129
経常利益	1,207	616
特別利益		
固定資産売却益	0	23
投資有価証券売却益	3	3
特別利益合計	3	27
特別損失		
固定資産除却損	68	262
減損損失	2,551	-
特別損失合計	2,619	262
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期 純損失 ()	1,408	381
法人税、住民税及び事業税	311	21
法人税等調整額	108	88
法人税等合計	202	110
四半期純利益又は四半期純損失 ()	1,610	271
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主 に帰属する四半期純損失 ()	1,610	271

【四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年5月1日 至平成29年1月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年5月1日 至平成30年1月31日)
四半期純利益又は四半期純損失()	1,610	271
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	4	11
退職給付に係る調整額	9	4
その他の包括利益合計	13	6
四半期包括利益	1,597	277
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,597	277

【注記事項】

(会計方針の変更)

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年5月1日 至平成29年1月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年5月1日 至平成30年1月31日)
減価償却費	823百万円	1,169百万円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自平成28年5月1日 至平成29年1月31日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の 総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成28年6月9日 取締役会	普通株式	261	利益剰余金	27	平成28年4月30日	平成28年7月12日

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自平成29年5月1日 至平成30年1月31日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の 総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成29年6月9日 取締役会	普通株式	208	利益剰余金	22	平成29年4月30日	平成29年7月11日

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

当社は、平成29年1月12日開催の取締役会決議に基づき、自己株式の取得を行いました。この取得により、当第3四半期連結累計期間において自己株式が160百万円増加し、当第3四半期連結会計期間末において自己株式が408百万円となっております。

なお、当該決議に基づく自己株式の取得につきましては、平成29年7月24日をもって終了しております。

(セグメント情報等)

(セグメント情報)

前第3四半期連結累計期間(自平成28年5月1日至平成29年1月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高および利益の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	ホテル	施設運営	遊園地	計		
売上高						
外部顧客への売上高	12,891	1,289	1,169	15,350	-	15,350
セグメント間の内部売上高 又は振替高	16	51	1	69	69	-
計	12,907	1,341	1,170	15,420	69	15,350
セグメント利益	1,116	32	60	1,209	7	1,216

(注)1 調整額は以下のとおりであります。

(1) 売上高の調整額は、事業セグメント間取引消去であります。

(2) セグメント利益の調整額は、事業セグメント間取引消去であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

「ホテル事業」セグメントにおいて2,551百万円の減損損失を計上しております。

当第3四半期連結累計期間(自平成29年5月1日至平成30年1月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高および利益の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	ホテル	施設運営	遊園地	計		
売上高						
外部顧客への売上高	13,905	1,286	1,077	16,270	-	16,270
セグメント間の内部売上高 又は振替高	20	54	0	75	75	-
計	13,926	1,341	1,078	16,346	75	16,270
セグメント利益	529	34	62	626	6	633

(注)1 調整額は以下のとおりであります。

(1) 売上高の調整額は、事業セグメント間取引消去であります。

(2) セグメント利益の調整額は、事業セグメント間取引消去であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(1 株当たり情報)

1 株当たり四半期純利益金額又は 1 株当たり四半期純損失金額および算定上の基礎、潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益金額および算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第 3 四半期連結累計期間 (自 平成28年 5 月 1 日 至 平成29年 1 月31日)	当第 3 四半期連結累計期間 (自 平成29年 5 月 1 日 至 平成30年 1 月31日)
(1) 1 株当たり四半期純利益金額又は 1 株当たり四半期純損失金額 () (円)	166.41	28.87
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額 又は親会社株主に帰属する四半期純損失 金額 () (百万円)	1,610	271
普通株主に帰属しない金額 (百万円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益金額又は親会社株主に帰属 する四半期純損失金額 () (百万円)	1,610	271
普通株式の期中平均株式数 (千株)	9,679	9,412
(2) 潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益 金額 (円)	-	28.73
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益調整 額 (百万円)	-	-
普通株式増加数 (千株)	46	45
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益金額の算定に含めな かった潜在株式で、前連結会計年度末から重 要な変動があったものの概要	-	-

(注) 前第 3 四半期連結累計期間の潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益金額については、潜在株式は存在するものの 1 株当たり四半期純損失金額であるため記載しておりません。

(企業結合等関係)

(共通支配下の取引等)

連結子会社間の吸収合併

当社は、平成30年1月30日開催の取締役会において、連結子会社であるファミリー観光有限会社を連結子会社である那須興業株式会社に吸収合併を行うことを決議いたしました。

1. 取引の概要

(1) 結合当事企業の名称及び事業の内容

結合企業の名称	那須興業株式会社
事業の内容	遊園地事業およびホテル事業
被結合企業の名称	ファミリー観光有限会社
事業の内容	旅行業

(2) 企業結合日

平成30年 4 月 1 日 (予定)

(3) 企業結合の法的形式

那須興業株式会社を存続会社、ファミリー観光有限会社を消滅会社とする吸収合併方式

(4) 結合後企業の名称

那須興業株式会社

(5) その他取引の概要に関する事項

経営の効率化を目的

2. 実施予定の会計処理の概要

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 2013年9月13日)及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第10号 2013年9月13日)に基づき、共通支配下の取引として処理する予定であります。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成30年3月13日

日本ビューホテル株式会社
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 甘樂 眞明 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 江下 聖 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている日本ビューホテル株式会社の平成29年5月1日から平成30年4月30日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成29年11月1日から平成30年1月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成29年5月1日から平成30年1月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、日本ビューホテル株式会社及び連結子会社の平成30年1月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. X B R L データは四半期レビューの対象には含まれていません。